

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

国語

深い思考につながる負荷を生徒にかけ、
じっくり考えて学ぶ姿勢を育む



宮城県涌谷高校

根元 学 ねもと・がく

同校に赴任して4年目。教務部長。国語科。



学校概要

◎設立 1919 (大正8) 年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年 120 人

◎2023 年度卒業生進路実績 国公立大は、室蘭工業大に1人が合格。私立大は、石巻専修大、東北学院大、東北福祉大、宮城学院女子大、十文字学園女子大に延べ7人が合格。短大・専門学校進学 21 人。就職 46 人。

私が
目指している
授業

常勤講師として勤めた高校では、例えば評論なら、私が素材文の論展開を説明し、生徒はそれをノートに写すといった講義型の授業をしていました。しかし、生徒はつまらなそうで、授業後にレポートを書かせても、考えが深まっているようには見えませんでした。そこで、生徒の思考力を育む手法を模索し、前任校では周りの先生方に助言をもらいながら、対話的な授業形態を研究しました。本校では、学習に対して自信がなく、他者との対話が苦手な生徒が少なくありません。そのため、生徒の発言を私が肯定的に受け止めたり、失敗を恐れずに自分の考えを発言できるような「協働学習のあり方」を生徒自身に考えさせたりすることで、対話の活性化に努めています。

授業レポート

本時の概要

- [対象] 1年生 [教科・科目] 国語・現代の国語
[単元] 平野啓一郎『「本当の自分」幻想』
[単元目標] 論展開を把握し、筆者の主張に対する理解を深める。
[授業時数] 全6時間のうちの5時間目
[本時の目標] 榎本博明『鏡としての他者』と前時までに学んだ「分人主義」(*1)とを比べて、両筆者の主張の共通点を考える。



単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/>または右の2次元コードからアクセスしてください。



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

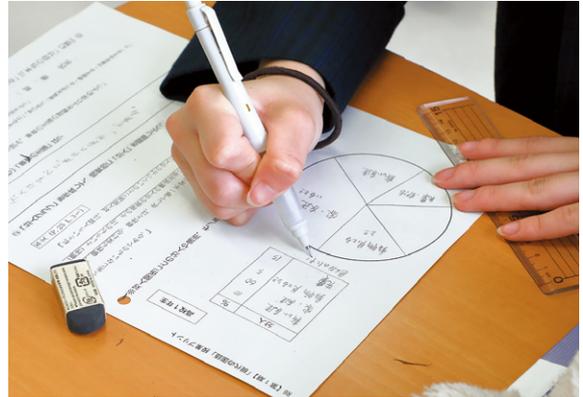
担任

1 本時の課題の提示、前時の振り返り 5分間



本時は、本単元の素材文をより深く理解するために、別の素材文を読んで、両筆者の主張を比較すると、根元先生が説明。前時までに読解した本単元の素材文の内容をペアで振り返り、ワークシートに記入した。そして、根元先生に指名された生徒が、「筆者の主張は『分人とは本当の自分である』」と答えた。

2 「分人グラフ」を作成 15分間



素材文の一部を音読した後、自分に影響を与えている他者や所属の構成比率を表す「分人グラフ」を作成。生徒が自分の分人を視覚的に整理し、筆者の主張を追体験することで、筆者の主張に対する理解を深めることがねらいだ。グラフの作成のヒントとして、根元先生は自分の高校時代の分人グラフを投影した。

3 他の素材文を読解 20分間



生徒は、榎本博明『鏡としての他者』の一部を読み、文中にある「自己とは他者である」の意味を考えた後、自分の考えをペアで共有した。根元先生が、「筆者の主張はどこに書かれていることが多いんだっけ？」などと問いかけると、前時の内容を思い出し、答えにたどり着いた生徒もいた。

4 他の素材文との読み比べ 10分間



最後に、生徒は2つの素材文の共通点を考えてワークシートに記入。根元先生は黒板に「〇〇が必要」と書き、「〇〇には何が入る？」と問いかけた。その問いを手がかりに、「分人や自己イメージの決定には『他者』の存在が必要」などと追記する生徒もいた。授業後、生徒は振り返りシートを提出した。

*1 分人主義は、平野啓一郎氏が提唱する説。「本当の自分」は1つではなく、相手やコミュニティによって変わる複数の人格をすべて「本当の自分」と捉える考え方。

発問・課題設定の観点

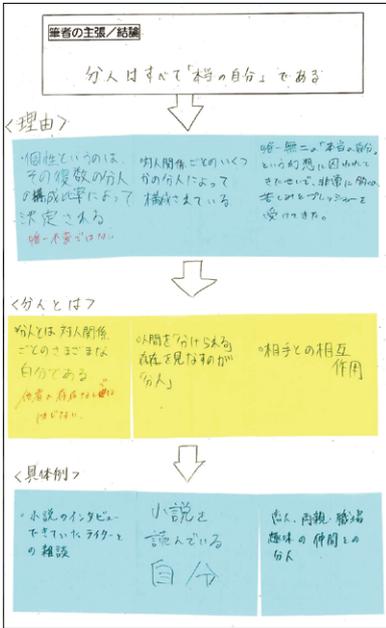
論展開の図式化や
他の素材文との比較などで
読解を深める



授業では、私からの説明は最小限にし、生徒が自分で考える課題を多く設定しています。例えば、本時の前までは、素材文の「筆者の主張・結論」「理由」「根拠」「具体例」といった要素を整理する「論展開図」(図1)を作成しました。素材文の要約よりも論展開を図式化する方が、生徒がより読解を深められると考え、よく取り組ませています。

図1 論展開図 作成の流れ

- 1 [個別学習] 素材文を通読して、「筆者の主張」と「論展開」を捉える
 - 2 [協働学習] ①で考えたことを3~4人のグループで1つの論展開図にまとめる
 - 3 [共有] ②の内容を全体に発表する
- グループで作成した本単元の論展開図(例)



※学校資料をそのまま掲載。

ば、グループワークの前には必ず個人で考える時間を設けています。また、自分の考えを書けない生徒にはヒントを出します。本時では、「筆者の主張はどこに書かれていることが多いんだっけ?」と問いかけたところ、前時に学習したことを思い出して答えにたどり着いた生徒もいました。本時のように、教科書に載っている素材文とは別の素材文を用いて、両筆者の主張を比較する活動もしばしば行っています。別の視点から教科書に載っていない素材文を捉えて、より深く読解できるようにするためです。例えば、『骨とまぼろし』(2)の単元では、世界情勢に関するニュース記事を読み、異文化理解について考えさせました。

学習評価の工夫

A評価に満足せず、
考えを深められるような
コメントを書いて返却



知識・技能は定期考査、思考・判断・表現は論展開図やワークシートなどのパフォーマンス課題、主体的に学習に取り組む態度は2コマに1回程度書く振り返りシートなどを材料にして、各観点の評価をしています。

パフォーマンス課題と振り返りシートは、それぞれのルーブリック(図2)を使って、まずは生徒が自己評価をします。その際、自己評価がA評価でも、「なぜ、そう考えたの?」「ここをもっと深めてみよう」などとコメントを書き、生徒がさらに掘り下げて考えられるようにしています(図3)。また、自己評価と教師の評価にずれがある場合には、なぜ教師がその評価をしたのか、ルーブリックを基に考えるよう、声をかけています。そして、コメントや声かけを踏まえて書き直し、再提出した生徒には加点をしています。

図3 生徒の振り返りシート(記入例)

振り返りシートに、生徒が考えを深められるようなコメントを書いて返却する。

※学校資料をそのまま掲載。

図2 パフォーマンス課題のルーブリック(抜粋)

	主張/結論を捉えられているか	論理的な説明になっているか	分かりやすい体裁になっているか
A	●筆者の主張もしくは結論を適切に捉えられている。	●筆者の主張もしくは結論を導く理由や根拠、具体例を論理的に説明できている。	●誤字脱字がない。 ●表現が正しく、読みやすい文章である。
B	●筆者の主張もしくは結論を部分的に捉えられている。	●筆者の主張もしくは結論を導く理由や根拠、具体例を論理的に説明できているが、論理的でない部分がある。	●誤字脱字が少ない。 ●表現が正しく、比較的読みやすい文章である。

ルーブリックはA~Cの3段階で作成。

※学校資料を基に編集部で作成。

* 2 真木悠介『気流の鳴る音 交響するコミュニケーション』(筑摩書房)より。本書では、コミュニケーション構想のための比較社会学について触れている。



1年次に生徒に考えさせる「協働学習のあり方」

●自分で作る基準だからこそ、意識し続けられる

本単元の最後の授業に、『『よい』『悪い』ペアワーク・グループワーク』について考える課題を出しました。入学して間もない5月に、生徒が自分でよいペアワーク・グループワークの基準を作り、授業に臨む心構えを持たせることで、これからの高校3年間の授業を通じて成長していけるようにすることがねらいです。

生徒の多くは、4月からの授業での私の声かけを通じて、どういったペアワーク・グループワークがよいものなのかを、ある程度理解しているようでした。しかし、教師が提示するペアワーク・グループワークに対して当事者意識を持ち切れず、議論の途中で考えるのをやめてしまったり、程々の解答で満足してしまったりする姿が見られました。そこで、よいペアワーク・グループワークの基準を自分で考え、明文化することで、生徒がペアワーク・グループワークをよりよい活動にしようとする意識を持ち続けるのではないかと考えました。

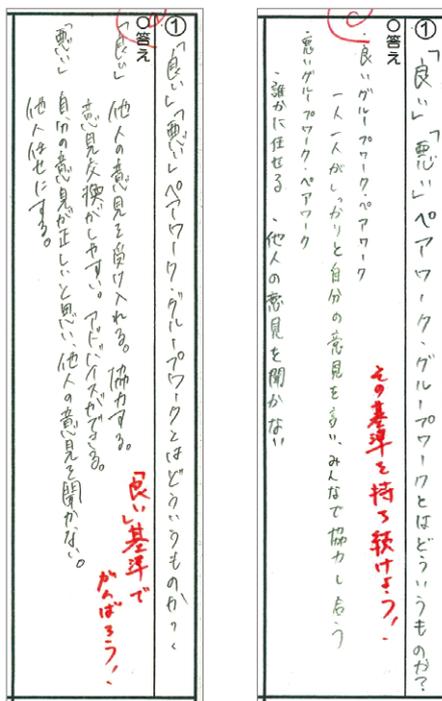
●2学期の途中に基準を見直す

生徒が考えたよいペアワーク・グループワークの基準には、「意見交換ができる。アドバイスがしやすい」「一人ひとりが意見を言って、みんなで協力し合う」といったことが、悪いペアワーク・グループワークの基準には、「自分の意見が正しいと思い込み、他者の意見を聞かない」「人に任せてしまう」といったことが書かれていました(右図)。ペアワーク・グループワークが停滞した時などは、自分で決めた基準を振り返るよう、声かけをしようと考えています。

授業に慣れてくると、自分で決めた基準を忘れてし

まう生徒も出てくるでしょう。また、ペアワーク・グループワークを数多く経験した生徒の中には、「もっとよりよい活動にするためにこうしたい」といった思いを持つ生徒もいるかもしれません。そのため、2学期の途中に基準を見直す機会を設ける予定です。

■生徒が考えたよいペアワーク・グループワーク



高校に入学して約1か月間の授業で取り組んだペアワークやグループワークを振り返り、生徒それぞれが、自分が考える『『よい』『悪い』ペアワーク・グループワーク』を書いた。

※学校資料をそのまま掲載。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

成果と展望

自分で疑問を
持つて
考えを深められるように



2023年度の卒業生は1年次から3年間受け持ちました。入学当初は学習意欲があまり見られず、教師の指示通りに行動するだけでした。そこで主体性を育もうと、グループワークや振り返りの大切さを説明し、繰り返しそれらに取り組みさせました。すると次第に論理的に考え、多角的に物事を捉えることが増え、自ら疑問を持つて考えを深められるようになりました。その効果もあってか、9年ぶりに国立大学合格者が出たことは、私にとつて自信になりました。今年度受け持つ1年生も、卒業までに自分で考えを深める力がつくよう、授業に探究学習を取り入れたと考えています。希望進路の実現に向けてどんな力が必要なのか、その力はどうすれば身につくのか、生徒自身が考えられるようにしていきたいと思っています。